

令和元年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
自己評価書

横浜市立みなと総合高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制・普通科

2 学校長 宮村 浩文 （令和2年4月1日現在 在職1年目）

3 学校教育目標

人間力を高める

「知識活用力」「自己実現力」「人間関係力」を培い、人間力を高める

4 教育方針

・めざす学校像

確かな学力の向上を図り、自主・自学の精神を育て、学ぶ力を伸長する学校
総合学科の特徴を生かしたキャリア教育を推進し、相互理解を深める学校
多文化共生、異文化理解教育等の取り組みを実践し、相互理解を深める学校

・めざす生徒像

真摯な学びを通し、蓄積した知識を活用することができる生徒
特色あるキャリア教育を通し、将来の展望を拓くことができる生徒
多種多様な教育活動を通し、温かな人間関係を築くことができる生徒

5 教職員数（令和元年12月1日現在）

学校長 1 校長代理 0 副校長 2 事務長 1
教諭 57 （男 30 、女 27 ） 養護教諭 2
実習助手 2 事務職員 3 技能職員 3
A E T 2 非常勤講師 19 管理員 1

6 生徒在籍数（令和元年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	6	54	184	238
2	6	51	182	233
3	6	47	185	232
4	1	1	1	2
合計	19	153	532	705

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		61	56	91.8 %
生徒	1年	238	219	92.0 %
	2年	233	205	88.0 %
	3年	232	196	84.5 %
	4年	2	2	100.0 %
	合計	705	678	96.2 %
保護者		705	459	65.1 %

8 自己評価実施日

教職員	令和元年 10月 24日～	令和元年 12月 10日
生徒	令和元年 11月 11日～	令和元年 12月 13日
保護者	令和元年 12月 10日～	令和元年 12月 25日
地域	年 月 日～	年 月 日

9 集計・分析期間

令和元年 10月 24日～	令和元年 1月 30日
---------------	-------------

10 自己評価書の公表方法・時期

学校 WEB ページにて、令和 2 年 5 月中旬頃公表予定。

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員 p.2-1、生徒 p.7-1、保護者 p.11-1,2)

取組	<p>(1) 幅広い選択科目 総合選択科目、自由選択科目などの幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視している。</p> <p>(2) キャリア教育 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」により、生徒のキャリア形成を支援する。</p> <p>(3) 国際交流活動 国際理解教育、人権教育、国際交流プログラムにより、語学力とともに国際性を高める。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none">・生徒アンケート1「科目の選択」の肯定的評価は90.4%と高い評価である。・高校生として必要な学力を身に付けさせるべく30年度から共通履修科目を増やし、英語、数学を2年次でも全員が学ぶことにより、基礎学力が向上し、進路選択の幅も広がっている。・国際交流の取組は、それぞれの担当部署を中心に業務が行われ、生徒の活動を指導・支援した。
課題	<p>(1) 幅広い選択科目</p> <ul style="list-style-type: none">・30年度に引き続き、「幅広い選択科目」を適切に選択するための知識や意欲がさらに必要になると考える。 <p>(2) キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none">・「キャリア教育」のさらなる充実を図り、進路実現に向け基盤となる学力の向上を図る。 <p>(3) 国際交流活動</p> <ul style="list-style-type: none">・国際交流活動に関わる業務分担を行ったが、今後も必要に応じて検討していく必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・生徒が適切に科目を選択するために、教職員が教育課程や総合学科高校の意義を共通理解するべく研修する機会を増やす。また、生徒に対する指導についても共通理解を図る。

2 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.1-2,3、生徒 P.5-1、保護者 P.9-2)

取組	(1) 「幅広い選択科目」 生徒の希望する進路や興味・関心に対応した多様な選択科目を設置している。 (2) 「主体的な科目選択」 計画的な科目選択ガイダンスを通して、進路や興味・関心に応じて、一人ひとりの時間割づくりを行っている。
成果	・ 生徒アンケートの肯定的評価も 90.4%あり、総合学科としての多様な選択科目の設定については評価が高い。 ・ 保護者保護者アンケートで本校のカリキュラムが進路実現に適しているのかの設問で、肯定的評価も 80.1%あり評価は高い。
課題	・ 生徒と保護者とも本校のカリキュラムに対して昨年同様ほぼ同じ値であったため、保護者に対してより一層の理解を深める必要がある。
改善策	・ 向上した現状に満足せず、引き続き選択科目の充実に取り組んでいきたい。「カリキュラムと進路実現」に関しては、キャリアガイダンス部と連携して、生徒のよりよい進路実現に向けて、努力をしていく必要がある。

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 P.1-10、生徒 P.5-6、保護者 P.9-6)

取組	・ 各学年のガイダンスを年次ごとに工夫をして、生徒の進路選択の動機づけとする。 ・ 2020年度の入試改革、高大接続、4技能検定等の対策。 ・ AO入試や推薦入試について、面接練習等きめ細やかな指導。 ・ 公務員試験や民間就職試験に向けて、複数回のガイダンスや外部講師による指導。 ・ 一般受験者向けに、勉強の仕方や計画の立て方など今からできること、やらなければならないことを確認する場を設け、しっかりと受験に臨める態勢を構築すること。 ・ 年次ごとに保護者会を開き、進路実現に向けての協力体制の構築と情報提供。 ・ 「進路の手引き」を用いて年次ごとに指導内容を考え、適切な情報を与えるとともに進路実現に向けての取り組みを行った。
----	---

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 保護者アンケート 6「進路情報の提供と指導」について、肯定的回答は 73.4%とかなりよい回答になっている。進路部開催としては年一回の保護者会で、進路情報を提供した、本年度は保護者も交えた学校別分野別ガイダンスも行って見た、準備等は大変であったがそれなりの効果はあったとみている。 ▪ 教員用アンケート 10「生徒の希望する進路の実現に向けての取組」では、肯定的な回答が約 80 パーセントとなっているが、否定的な回答も 15 パーセントあるのでこの部分をもっと少なくしていきたい。肯定的な意見は教員向けガイダンスや年次会への情報提供を行った結果とみている。 ▪ 生徒アンケート 6「進路情報の理解」について。1 年次に対しては情報の内容が十分に理解できてない場合も考えられる。「産業社会と人間」の中のキャリア教育がまだ足りないと感じる。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 以前と比べてみなと総合はそのほとんどの生徒が進学という進路を選ぶ。そのために必要なことは、どの分野を選んでも困らない基礎学力を身に着けること。そして、そのためには高校生活での授業をしっかり受けること、安易な道に頼らずしっかり勉強してチャレンジして自らの道を切り開くという気概を持つことが必要である。 ▪ 大学入試改革に伴い、その準備、対策を早め早めに行っていくことが必要である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 本校は、17 期から共通履修の科目数を増やし、基礎学力を重点的に伸ばすべく教育課程を変えてきた。そして、その効果が出るのは 17 期が卒業する次年度からということになる。 <p>また、経験の少ない担任が進路に応じた適切な指導や助言ができるように、多くの進路に対する研修が必要である、そのためには教職員対象の研修会も増やしてゆく予定である。</p>

3 学校経営の状況

□組織運営・教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 p.2-15,18)

取組	<p>(組織運営)</p> <ul style="list-style-type: none">・校内組織の改編を行い、令和元年度よりキャリアガイダンス部を新設した。 <p>(教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none">・学校グランドデザインを策定するための研修会を開催した。・スクールカウンセラーを講師に招き、緊張支援での心のケアについて研修した。
成果	<ul style="list-style-type: none">・キャリア教育と進路指導を統合して、大学入試改革に対応できるようにした。・グランドデザインを考えるために、現在の学校や総合学科の在り方について考える時間を持つことができた。・生徒の心のケアについて考える時間を共有できた。
課題	<p>(組織運営)</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリアガイダンス部の業務内容について、さらに検討する必要がある。 <p>(教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員アンケート 18「研究・研修」について、校内の研修・研究体制が整えられていると評価している教職員が50%に満たないことが大きな課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・管理職がリーダーシップをとりながら、様々な課題や要望に対応できる組織を作る。・教職員がどのような研修を望んでいるか等の意見を取り入れながら、研修会の内容を考え、進めていきたい。・学校全体に理解が求められるような教育活動については、職員会議や校内研修の機会を継続的に設け、内容についても検証していく。

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 p. 2-25, 26、生徒 p. 7-12)

取組	<ul style="list-style-type: none">・平成 31 年改訂「学校防災計画」の内容に沿って防災訓練を 2 回、職員対象の防災研修を 1 回行った。・大津波を想定した 3 校合同訓練を行った。・警報発表時や災害時の対応について、保護者会や学校連絡・情報共有サービス (cocoo) を通して保護者への周知を図った。・緊急時の情報発信を迅速化するために cocoo や Web ページの活用を継続している。
成果	<ul style="list-style-type: none">・教職員による学校評価では、25 安全対策について 85.7%、26 防災対策について 89.3%の肯定的回答になり、多くの教職員がおおむね実施できていると認識している。
課題	<ul style="list-style-type: none">・生徒による学校評価 12「災害時の避難経路」について、肯定的な回答が 54.5%となっており、なかなか改善できていない。避難経路の確認が避難訓練時のみになりがちなこと理由の一つと考える。どう改善していくかが大きな課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・訓練の時だけでなく、生徒が日常的且つ主体的に防災意識を高めることができるような取組の検討が必要である。ホームルームや生徒会活動などの特別活動の時間を活用し、広い視野で工夫・改善について検討していきたい。・教職員の防災意識を高めることも必要である。教職員の研修を通して意識を啓発し、生徒への指導にも繋げたい。また、防災委員会を中心に学校防災が円滑に運営できるようにしていきたい。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 P. 1-28、生徒 P. 5-2, 4, 5)

取組	<ul style="list-style-type: none">・ 教員間での生徒の情報共有と協力体制の強化を目的とした「生徒情報交換会」の充実・ 学校生活アンケートによる状況把握とその対応・ 個人面談を含む相談活動・ 生徒が相談しやすい教職員との関係づくり・ 教育相談の専門家（SC）との積極的な連携
成果	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒情報交換会では、生徒の特性を早期に職員で共有し、指導体制の充実を図ることができた。・ 学校生活アンケートをもとに個人面談を行い、生徒の状況を把握した上で生徒指導に当たれた。・ 生徒アンケート2より、85.4%の生徒が良好な人間関係を築いていると回答。また、生徒アンケート4が76.3%と相談できる教員が身近にいると感じている生徒も多いと思われる。
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 一方、生徒アンケート4で、相談できる教員について「そう思わない」が9.2%と厳しい評価を受けていることは外せない課題である。・ 生徒アンケート5の「ややそう思う」以上が71.0%にとどまっており、安心できる環境づくりの更なる充実が必要である。・ 上記二つより、教員からの積極的な声掛け等相談しやすい環境づくりが課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 4月当初に教育相談窓口の周知を徹底する。・ 日常的に生徒との交流を図り、教師と生徒の良好な関係を築いていく。・ 入学年次およびクラス替え後の2年次に、人間関係の不安を少しでも改善出来るような行事の置き方や参加体制を検討していく。